

# 一人の手



第 15 号

発行日 平成十七年九月十九日  
発行者 佐藤ひろゆき後援会  
所在地 〒997-0024 鶴岡市朝陽町一〇-二二  
電話 0235-24-3402 FAX 25-2713  
住宅 〒997-0025 鶴岡市日出一丁目七-六  
電話 0235-25-1411 FAX 25-1411

## 合併するよりいいじゃん 合併したあといいじゃん

合併するということは、これからの新鶴岡市民の幸せのために、福祉も保健も医療も農業も、などなど様々な分野で市民に一番身近な市町村が主体となつてまちづくりをしていかなければならなくなっていますし、地方分権の受け皿としての基盤となるためです。市民から求められる行政サービスは、一層多様化、複雑化し、迅速化を求められています。基盤を強化して、行政サービスを低下させずに、且つ、効率的に行財政運営をしていくために合併するというこ

とです。  
合併したあととは、6市町村がそれぞれもっている良さを尊重し合い、力を合わせて、新たな鶴岡づくりに挑戦していかなければなりません。それにふさわしい、未来への確かなビジョンと政策をもち、それをやり遂げる強固な意志と若い力をもった議員が必要です。



## 市政に活かす

### 「当事者」という財産を活かす

私は、1歳2ヶ月の時に小児麻痺を患い、以来、1種1級の障害者として、松葉杖をついて4本の足で歩いています。「当事者」として見たこと、「当事者」として感じたこと、「当事者」として経験したことを活かして、新鶴岡市の市政に声を反映していきます。



### 「現場」の経験を活かす

私は、平成2年から「よつばの里」の福祉施設運営に関わり、障害者・高齢者の自立と社会参加の支援のために働いてきました。この「現場」の経験を活かして、これからの新鶴岡市の福祉の充実のために力を尽くしていきます。

### 「今あるもの」を活かす

私は、この鶴岡にある美しい自然、おいしい食べ物やお酒、既存の建物、受け継いできた伝統、培われてきた文化、このようないろいろな資源を大切にしていって、新鶴岡市の観光に、産業に、教育に、財政に活かしていきます。

17年8月  
山王町東部お茶のみサロン



朗読ボランティア



## まち 安心と安全の鶴岡づくりは「納税者」の立場から

昔は、福祉は費用負担ということで、政府にも自治体にも負担という意識がありました。

安心と安全のまちをつくること、福祉を盛んにするという事は単なる負担ではなくて、投資です。この投資によって雇用を増やすことができるし、そこから生産物も生まれてくるのです。金儲けのための投資ではなく社会に責任をもつ積極的な投資です。これによって福祉人材、医療の人材、文化の人材、技術者、コーディネーターなどを養成することです。

社会に責任をもつ投資の中心になるのは「税」です。みんなでお金を出し合って、社会に責任もてる投資をする。そのために、「納税者」の立場で考えるということです。「税」の使い途の「優先順位」を変えること。一番大事なことは、「安心と安全」を優先するという事です。市民として、私達が汗水流して納めた「税」の使い途をしっかりと見守りましょう。

新鶴岡市合併6市町村を

## みんなで支えあい「鶴岡全体を一つの福祉村にしたい」

かつての時代は、町にも村にも暖かな人間同士の「信頼関係のネットワーク」がありました。戦後の高度経済成長は、利益優先競争社会と都市化と核家族化をもたらしました。

今、町や村や隣近所に信頼関係は薄れてきました。信頼関係という基盤がないと何をやってもうまくいきません。地域社会の中でお互いの人間が人間として信頼できてこそ、みんなで支え合う地域社会をつくりだすことができると思います。信頼関係というものが究極的なコミュニティを支えていくのだと思います。

この度合併します6市町村の住民の信頼関係のもと、みんなで支えあい「鶴岡全体を一つの福祉村にしたい」と考えています。



17年7月 「かたぐるま」 夏まつりボランティア